

| | |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 学校教育目標 | |
| 教育目標…………… | 校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。 |
| 中・長期目標…………… | 定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。 |

| | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己肯定感をもてる授業を推進し、研究授業を活用するなどして教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。 ・卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な学習の時間」における資格取得の向上への取組など、進路支援の充実にも努めることが必要である。 ・支援の必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりをより推進することが必要である。 ・本校定時制の良さをより広く発信するため、参加しやすく相談しやすい学校説明会への実施形態の見直しが必要である。 | |

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題 | |
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実 (2) 部活動の充実 (3) 家庭、地域社会、異校種の学校との連携強化 (4) 教職員の資質向上と健康増進 | |

| 4 自己評価 | | | | | 5 学校関係者評価 | | |
|--------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策(教育活動) | 評価基準 | 達成度 | 重点目標の達成状況の診断・分析 | 学校関係者からの意見・要望等 | 評価 |
| 学習指導 | ○生徒が自己肯定感をもてるような授業の工夫と改善 | ・理解しやすい授業、わかる授業、参加している実感をもてる授業の工夫を進める。 | 生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4:80%以上であった。 3:60%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。 | 4 | ・今年度は82.3%であり、昨年の79.5%を上回ることができた。多くの先生はどうすれば生徒に理解してもらえるかを日々考え、試行錯誤しながらわかる授業を実施するため、教材研究に励んでいる。 ・生徒が自己肯定感をもてる授業の工夫と改善も少しずつ前進しているように感じる。 | ・常に熱心な指導姿勢が、生徒にも伝わっているのと思う。 ・一般論として、心の問題を抱えている生徒は学力の問題を同時に抱えているケースが多い。自己肯定感の醸成は大切であり、授業の工夫と改善に継続して取り組んでほしい。 | A |
| | ○教員相互の授業研究・公開授業の推進 | ・本校、他校、小中学校などの公開授業に参加し、授業研究を進める。 | 4:3回授業参観し、授業研究に努めた。 3:2回授業参観し、授業研究に努めた。 2:1回授業参観し、授業研究に努めた。 1:授業参観することはなかった。 | 4 | ・校内における教員相互の授業参観は前向きに実施され、3回以上参観し授業研究に努めた。また、他校定時制や小中学校などの公開授業にも参加し、授業研究を進めることができた。その結果、授業の改善に役立てることができた。 ・初任者研修やフォローアップ(2年次)研修に伴う研究授業を実施し、全日制定時制の多くの教員に参観してもらい、全定の連携と授業研究を進めることができた。 | | |
| 生徒指導 | ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実 | ・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに発展させる。また保護者との連絡を頻繁に行い、協力和相談を密にする。 | 4:校内だけでなく校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3:校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2:生徒への対応が図られた。 1:生徒への対応に不十分な点が多かった。 | 4 | ・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。保護者からの相談も従前よりは行いやすくなったと思われる。 ・また、校外での各組織(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事案によっては協議している。 | ・いわゆる「管理的」ではない、開発的な生徒指導が行われていると感じる。丁寧な学校生活指導とわかりやすい授業で生徒を意欲的にできれば、日常の行動に落ち着きが生まれる。 ・心の問題を抱える生徒は、早く見つけて、専門家に繋ぐことが大切ではないか。引き続き、学校内外で支援の連携に努めてほしい。 ・様々な課題を抱えた生徒一人ひとりへのきめ細かい指導に感謝している。 | A |
| | ○日常の生徒の意識や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築 | ・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が今年度は例年になく多種多様であるため、学校不適応による意欲の低下や生徒間の問題を事前に察知する。 | 4:個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3:個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2:支援と指導に取り組んだが、事後対応が主であった。 1:支援と指導が不十分であった。 | 3 | ・生徒一人ひとりの状況を把握し、教育相談や生徒指導担当との情報共有を行っている。繊細な事柄については、全体の職員会議においても議題として全員で支援や指導方法について模索してきた。 ・特に本校に対して拒否感はないものの、高校へ通学する、あるいは高校で学習し卒業する、という価値観に乏しい生徒に対して、所属意識を持たせることには苦慮している。 | | |
| 進路指導 | ○個々の生徒の進路支援の充実 | ・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。 | 4:7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3:半数以上の生徒へは支援をすることができ具体的な進路に結びついた。 2:情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1:情報伝達に終わった。 | 4 | ・ほとんどの生徒に個別支援を行うことができた。しかし、生徒の能力・希望・家庭状況等がそれぞれ異なり、具体的な進路に結びつかなかった例が今まで以上に多かった気がする。特に就職希望者については、雇用状況が近年良いにもかかわらず、自分がどんな職業に就きたいのか、どうやって今後の人生を歩むのか分からない生徒が増えてきたように思う。総合的な学習の時間を使った内容の検討が必要であろう。 ・情報交換は学期末には職員会議で報告を行ってきた。 | ・引き続き、卒業生講話や社会人講話(会社の人事担当の方など)を活用するなどして、生徒が主体的に自らの進路を考えていけるよう、支援をお願いしたい。 ・評価基準の改善が必要であれば、検討してほしい。ただしその際、目標との整合性が失われないように、留意のこと。 | B |
| | | ・「総合的な学習の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。 | 4:生徒の70%以上が受検し、合格率は60%以上であった。 3:生徒の70%以上が受検し、合格率は40%以上であった。 2:生徒の50%以上が受検した。 1:生徒の50%未満しか受検しなかった。 | 2 | ・27名が受検し、10名が合格した。受検率は67.5%(昨年度90.3%)で昨年度より大きく下回った。合格率も37.0%で昨年度の53.5%を下回った。受検率が下がった原因として、総合的な学習の時間におけるキャリアアップで、生徒に合格の自信をつけさせることができなかつたためと考えられる。また、合格率が下がった原因は昨年度に比べ、受検する級の設定が不適当だったためと考えられる。漢字検定の受検級を慎重に選ばせる必要があると考える。 | | |
| 特別活動 | ○生徒会における自主的な企画と活動を促し、生徒自身の力で良き慣習が引き継がれるように支援 | ・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会の4つの生徒会行事において、生徒自身の自己工夫を促し、生徒会役員のみならず全生徒を主体的に活動させ、学校行事を思い出に残るものとさせる。 | 4:すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 3:2つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 2:1つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 1:すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができなかった。 | 3 | ・生徒会中心の行事については例年の典型がほぼ完成されている。それをマンネリと捉えることもできるが、生徒側としては毎年入れ替わりがあるので教員の考えとは異なり、意外と楽しみにしているようだ。 ・今年度は総生徒数も40名を超え、学校行事では予算配分や準備においてこれまでにない煩雑さもあつたが、主体的に活動できたと考ええる。 | ・行事をはじめとした特別活動は、生徒の主体性や協調性を育む貴重な時間なので、思い出に残る学校行事となるよう、生徒会や生徒の主体的活動の支援に努めてほしい。 | A |
| 業務改善 | 組織的な取組 | ・学校説明会の実施形態の見直し・改善を図る。 | 4:学校説明会の実施形態の改善を図るとともに、複数回開催できた。 3:学校説明会の実施形態の改善を図ることができた。 2:従来どおりの形態による実施であった。 1:学校説明会を開催できなかった。 | 4 | ・学校説明会の実施形態を見直し、全体説明の後、中学生・保護者のグループと中学校の先生方との2グループに分け、より細かく質問に対応できるようにした。 ・例年実施している11月(11月11日計21名参加)に加え、翌月(12月7日計4名参加)にも開催した。 ・実施後のアンケートで、9割以上の参加者から、説明は「よくわかった」との回答をいただいた。 | ・学校説明会をはじめ、様々な機会をとらえて定時制のPRIに教員全員で取り組んでほしい。 ・引き続き、作業環境の見直しに努め、業務の効率化を図ってほしい。 | A |
| | 整理整頓 | ・書架や供覧文書の設置場所など、職員室の作業環境を見直し、ワーキングスペースを拡充する。 | 4:作業環境が整理整頓され、ワーキングスペースが拡充された。 3:作業環境が整理整頓されたが、ワーキングスペースの拡充には至らなかつた。 2:作業環境は従来どおりで変わらなかつた。 1:今年度分の増加で、作業環境がより劣悪になった。 | 4 | ・窓際の書棚を整理し、不要な文書・書籍等を廃棄した上で、さらにその棚の上の荷物を撤去し、供覧文書・書籍等の配置をまとめた。 その結果、作業スペースが幅約3mから約6mに拡充し、作業効率が格段に上がった。 ・職員室内の収納場所が不足しており、使用頻度が極めて低いもの(年1回程度)が壁側の書棚の上に保管されている。引き続き環境改善の解決策を探る必要がある。 | | |

| 6 学校評価総括(取組の成果と課題) | |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【成果】 | <p>①初任者研修やフォローアップ(2年次)の研究授業をはじめ、互見授業や他校の公開授業への参加など、授業研究の取組が増え、授業アンケートでも肯定的な評価の割合が増加した。また、全日制との授業研究の連携も進んだ。</p> <p>②スクールカウンセラーや養護教諭と緊密に連携することで、支援を必要とする生徒に専門的なサポートを行うことができ、状況が改善したケースがあった。</p> <p>③学校説明会の実施形態の見直しと複数回実施に向けて教員全体で取り組んだ結果、昨年度より多くの質問が寄せられ、より詳細な説明をすることができた。また、進学の間い合わせのあった生徒や保護者を2回目の説明会に繋げることができた。</p> |
| 【課題】 | <p>①高校へ通学する、あるいは高校で学習し卒業する、という価値観に乏しい生徒に対して、帰属意識を醸成しつつ学習指導や生徒指導を行うことは難しかった。</p> <p>②自分の希望とする進路が明確でなく、また生徒自身の取組も受動的で、指導に苦慮した生徒が少なくなかった。</p> <p>③資格取得の取組(キャリアアップ)は、今年度新たな取組として扱う資格を増やしたが、教員数が限られていることと、生徒の状況が昨年と比べて大きく変わったため、昨年度のような成果は得られなかった。これは評価基準の設定の難しさもあり、検討の余地がある。</p> |

| 7 次年度への改善策 | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>①授業参観や互見授業等による研修は一定の成果が得られているので、今後学習指導の領域では、公開授業に加え、教務課のリーダーシップにより授業研修会等の新たな種類の研修を企画する。</p> <p>②生徒指導及び進路指導では、多様な生徒にきめ細かく支援を行えるよう、全体の指導力の向上を図りたい。そのために、校務分掌を見直し、ジョブ・ローテーションを取り入れる。</p> <p>③定時制職員室の文書書架上の荷物は、必要な時期に適切に使えるように、また災害時に落下の危険が生じないように、整理整頓と配置の見直しを教員全員で検討する。</p> | |